

令和 3 年度

報 告 書

庶務報告

会員数

| | |
|------------|------|
| 令和3年4月1日現在 | 324名 |
| 令和3年度入会者 | 18名 |
| 令和3年度退会者 | 34名 |
| 令和4年4月1日現在 | 308名 |

令和3年度入会者

河野 秀 郎 (皮フ科 河野クリニック)
中山 裕 晶 (中山レディースクリニック)
吉 積 司 (自衛隊別府病院)
大 樂 勝 司 (自宅会員)
亀 川 隆 久 (清瀬病院)
石 川 園 子 (大分総合健診センター)
檜 原 久 司 (大分総合健診センター)
中 島 麻祐子 (国家公務員共済組合連合会新別府病院)
小 畑 雅 寛 (荘園内科クリニック)
小 林 良 司 (国家公務員共済組合連合会新別府病院)
高 橋 剛 (国家公務員共済組合連合会新別府病院)
吉 道 剛 (国家公務員共済組合連合会新別府病院)
渡 邊 圭 祐 (国家公務員共済組合連合会新別府病院)
石 川 知 子 (農協共済別府リハビリテーションセンター)
黒 岩 英 (国家公務員共済組合連合会新別府病院)
細 田 清 孝 (自宅会員)
古 城 顕 央 (古城循環器クリニック)
池 田 真 一 (農協共済別府リハビリテーションセンター)

令和3年度退会者

古園晴久（荘園内科クリニック）
武田忠（朝見病院）
黒岩英（国家公務員共済組合連合会新別府病院）
熊埜御堂滋（死亡）
高木スエカ（死亡）
福田昭生（死亡）
中川昭十（自宅会員）
山崎六志（別府湾腎泌尿器病院）
阿部亨（別府中央病院）
中里興文（山本病院）
春木哲哉（村橋病院）
山本紘世（死亡）
右田寛（死亡）
渡邊浩一郎（大分県厚生連鶴見病院）
中島麻祐子（国家公務員共済組合連合会新別府病院）
吉積司（自衛隊別府病院）
吉良さおり（山本病院）
矢永尚士（死亡）
吉河康二（独立行政法人国立病院機構別府医療センター）
鳴海淳郎（死亡）
吉武朋子（自宅会員）
木村大作（自宅会員）
石川知子（農協共済別府リハビリテーションセンター）
黒木千尋（農協共済別府リハビリテーションセンター）
首藤宗一郎（農協共済別府リハビリテーションセンター）
武井崇展（農協共済別府リハビリテーションセンター）
永井寛之（農協共済別府リハビリテーションセンター）
本田昇司（農協共済別府リハビリテーションセンター）
山上由理子（別府中央病院）
小林良司（国家公務員共済組合連合会新別府病院）
田崎貴子（中村病院）
細田清孝（自宅会員）
藤富豊（大分県厚生連鶴見病院）
嶋田直宏（大分県厚生連鶴見病院）

会 議

| | |
|-------|-----|
| 臨時總會 | 1回 |
| 定時總會 | 1回 |
| 定例理事会 | 23回 |

一般社団法人別府市医師会（令和3年度第1回）臨時總會
令和3年4月2日（金）臨時總會
第1号議案 令和3年度会費賦課徴収金額の件他3件

一般社団法人別府市医師会第75回定時總會
令和3年6月25日（金）
第1号議案 令和2年度別府市医師会決算の件他1件

定 例 理 事 会

- 第1回理事会 4月14日（水）
新型コロナウイルス感染症検体回収業務委託事業について他14件
- 第2回理事会 4月28日（水）
新型コロナウイルスワクチン接種への協力依頼について他7件
- 第3回理事会 5月12日（水）
新型コロナウイルス遺伝子検査機器購入について他7件
- 第4回理事会 5月26日（水）
一般社団法人大分県医師会理事および裁定委員の補欠選挙について他15件
- 第5回理事会 6月9日（水）
別府市PCR検査センターの委託業務について他12件
- 第6回理事会 6月23日（水）
新型コロナウイルスワクチンの職域接種への協力について他15件
- 第7回理事会 7月7日（水）
新型コロナウイルスワクチン職域接種手数料について他14件
- 第8回理事会 7月21日（水）
理事会業務分担について他18件
- 第9回理事会 8月4日（水）
診療報酬取扱銀行アンケート調査結果について他4件
- 第10回理事会 8月18日（水）
別府市予防接種事故調査会委員の推薦について他4件
- 第11回理事会 9月1日（水）
借入金について他8件
- 第12回理事会 9月15日（水）
第73回保健文化賞受賞決定のお知らせについて他10件

- 第 13 回理事会 10 月 13 日（水）
 施設整備における業者選定について他 14 件
- 第 14 回理事会 10 月 27 日（水）
 採血後の後遺症の対応について他 10 件
- 第 15 回理事会 11 月 17 日（水）
 旧検診車の売却について他 25 件
- 第 16 回理事会 12 月 1 日（水）
 レントゲン機器更新について他 5 件
- 第 17 回理事会 12 月 15 日（水）
 学校医の推薦について他 11 件
- 第 18 回理事会 1 月 5 日（水）
 ホルター心電図解析ソフト及びホルター心電計・血圧脈波検査装置更新について
 他 9 件
- 第 19 回理事会 1 月 19 日（水）
 PCR 検査業務年末年始手当及び濃厚接触者検体採取業務危険手当について
 他 10 件
- 第 20 回理事会 2 月 2 日（水）
 看護学校男子更衣室空調機設置について他 9 件
- 第 21 回理事会 2 月 16 日（水）
 休日在宅当番医のセンター化に関するアンケート調査について他 18 件
- 第 22 回理事会 3 月 2 日（水）
 次年度の発熱外来トリアージセンター運営について他 9 件
- 第 23 回理事会 3 月 16 日（水）
 別府市医師会看護学生奨学金給付規定について他 16 件

事業報告

令和3年度に予定された事業は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大が影響し中止・延期となった行事もあるが、webによる開催、出張に代わるweb参加など、コロナ渦以前と比較して制限された面はあったものの徐々にではあるが事業遂行を回復させつつある。

総務部門では、令和3年6月25日の定時総会により令和2年度決算が承認された。事業については夏のレクリエーション、速見郡杵築市医師会・国東市医師会との懇談会、市民救急フォーラム、下関市医師会との親善スポーツ大会、メディカルセミナー、三師会合同役員会、忘年会、新年会などの事業が中止となったが、学術事業についてはweb配信と出席者を制限した会場参加によるハイブリッド型を基本として年6回開催することができた。今年度も会員福祉事業を主として本会が主催する事業は大幅に制限されたが、代わりに新型コロナウイルス感染者が宿泊療養する施設への出動医師・看護師の選出、新型コロナワクチン集団予防接種における出動医師・看護師のとりまとめ等、大分県や別府市など行政からの委託業務が、コロナ渦という現状を反映して日常業務の一つとなり、トータルとして事務局の業務量は例年に比して増している。

地域保健センターは、検査部門の業務委託契約が令和2年度をもって期間満了を迎えたため、特定健診・がん検診・小児生活習慣病健診などの検査について、集合契約を前提とする方向で検査委託先の選定を行い、協議検討の結果、ファルコバイオシステムズ社に代わりBML社と契約することとなった。BML社とは外注契約のため検査部門が廃止となり健診部門と統合するかたちで新体制がスタートした。当初は外注契約のため検査結果報告に時間を要していたが、それを補完するかたちで10月よりスモールラボを開設した。また、新型コロナウイルス感染拡大対策のために別府市からPCR検査委託事業、東部保健所からPCR検体回収及び濃厚接触者の検体採取・PCR検査委託事業等を地域保健センターで受託し、健診事業では減収であった収支が委託料の収入により大幅な増収となった。

看護教育では、教職員の尽力により、今年度閉校となる准看護学科は卒業した5名が受験し全員が合格、看護学科でも卒業した35名のうち全員が合格した。施設面では「別府市医師会立別府青山看護学校」開校という新環境に対応するため母子在宅実習室や休憩室(ラウンジ)、更衣室、講師室、面接室の設備、Wi-Fiの取付工事等の整備を行なった。今後も、本校を卒業した看護師が地域医療のために会員の先生方の手助けとなり、即戦力となって力を発揮することが出来るよう努力する所存であり、そのためには優秀な教員の確保と研修、より学習、指導の行いやすい環境づくり、施設設備の充実など、諸費用のかかる問題が多いが、看護師の養成は医師会が地域医療に果たす責務でもあるため、会員各位にはご理解いただきたい。

地域福祉部門は、関係会員と職員の尽力により訪問看護ステーション、居宅介護支援センター、ヘルパーステーション3部門総じて利用状況は昨年度に比較してほぼ横這いを維持しているものの、新規利用者数が減少傾向にあることに加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により減収減益となった。収支改善のためには、感染対策を徹底した上で、地道に新規利用者数を増やしていく必要があるが会員の先生方には、より一層の利用についてご協力をお願いしたい。

なお、事業遂行の詳細については、各部門の報告をご参照して頂きたい。

〈総 務 部〉

庶 務

令和3年4月2日、令和3年度第1回臨時総会を開催し、「令和3年度事業計画」と「令和3年度予算」を報告した。同時に令和2年度をもって退任した日下部隆則理事の欠員にともなう役員補欠選挙を行い、定員2名に対して1名の立候補があり、松川秀先生が理事に選出された。

令和3年6月25日に開催した第75回定時総会では「令和2年度決算」が承認され、欠員1名となっていた理事について、4月の臨時総会に引き続き役員補欠選挙を行い、定員1名に対して工藤亮先生の立候補があり理事に選出された。

令和3年度の入退会については入会18名、退会34名と全体の会員数308名（前年度より－16名）となり、医療機関の廃止が2件、ご逝去7名、開設が3件、A会員（開設者）が104名となった。

今年度も、新型コロナウイルス感染症対策のために、変更や縮小、中止を余儀なくされた事業も少なくなかったが、会議については、月2回開催している理事会のうち1回を3密対策としてリモート開催した。

コロナ禍も2年目となり、大分県医師会や東部保健所、別府市などの行政、企業等が主催する会議や講習会等においては、Zoom等を利用したオンライン化が通常となっていることもあり、本会でも令和2年度に中止を余儀なくされた会議については制限された面もあるが、Webやハイブリッド型での開催を基本として、定期的に会議を開催した。

また、会議のオンライン化にともない紙媒体を介さないメールやWeb上での情報伝達・情報交換も既に広く一般化してきたことから、令和3年度より回覧文書等の通知については、集配便による紙媒体での通知を終了し、BMA配信メール（回覧文書メール配信システム）と別府市医師会ホームページでの通知に変更している。

令和2年度に慢性的に不足していたマスク、ガウン、フェイスシールド、消毒液等医療物資等については、国（厚生労働省）や大分県からの定期的配布により、医師会事務局で数量を管理しつつ医療機関に配布し、加えて県主導による検査・診療を行う医療機関の体制も整い、コロナ禍当初の医療物資の不足に悩まされる状況は解消されている。

コロナ禍において、医療物資の充実や地域医療体制の整備はもちろんだが、新型コロナウイルスワクチンの3回目接種が国民全体に広く行き渡るまでの間は、感染症に対する個人個人の行動や意識が重要となる。新しい生活様式が提唱されて久しいが、ソーシャルディスタンス、マスクの着用、手指消毒、出勤前の検温は日常生活を送っていくうえでのエチケットとして定着しており、職員にもその徹底を引き続き周知している。

事業所としての内部管理体制では、平成31年4月より「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律（働き方改革関連法）」が施行され、事業主には「年次有給休暇の時季指定」・「労働時間の状況の把握」等が義務化されたことにともない、職員の有給取得状況を確認のうえ、取得日数が5日を下回らないよう管理者より職員に取得を促しているが、発熱外来トリアージセンター、別府市PCR検査センターの検査業務等で、日曜・祝日を返上した勤務を余儀なくされる部署や職員もいることから、管理者は職員に対して工夫しての有給取得を呼び掛けている。

各事業部門及びそれらを統括する本会の財政・経営状況は依然厳しいものであるが、事業の継続性を担保するためには、経費削減はもちろん、緊張感をもった事業戦略と更なる創意工夫が必要である。

- 令和3年4月2日 別府市医師会（令和3年度第1回）臨時総会
6月13日 一般社団法人大分県医師会第220回定例代議員会
25日 一般社団法人別府市医師会第75回定時総会
9月1日 新入会員インフォメーション

学 術

4月の学術部会において年間予定を協議検討し、通常年7回開催している学術事業については、今年度も新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、Z o o mを利用したW e b参加と会場参加（医師会館視聴覚室）を併用したハイブリッド型を基本とし、年5回の開催を予定した。

7月の学術講演会を皮切りに、9月に学術研修会、11月に第1回医療安全管理対策研修会、1月に第2回医療安全管理対策研修会、2月に学術集会を開催した。県外から講師を招聘しているメディカルセミナーと懇親会については、参加者の安全が担保できないことから、昨年度に引き続き中止となった。

7月の学術講演会ではロボット手術における現状と課題・今後の展望、9月の学術研修会では救急災害医療について①医療機関の役割分担、②ドクターヘリ・ドクターカーによる医療体制、③遠隔画像伝送システムを中心にご講演いただいた。11月の第1回医療安全管理対策研修会では業務改善を目的とした産業界による手法（TQC（総合的品質管理）、TQM（総合的品質マネジメント）、PDCA サイクル、SDCA サイクル、プロセスフローチャート（業務工程図）等）の医療への応用について、1月の第2回医療安全管理対策研修会ではオミクロン株に関する最新の情報提供、不明熱患者へのマネジメントに関する知識や感染症の診断法および治療法に関してご講演いただいた。いずれもそれぞれの分野において第一線でご活躍されている先生方の講演内容は充実しており、参加会員にとって有意義なものであった。

2月末に開催している学術集会については、今年度も開催時間を短縮するために演題数を制限し、8題の一般演題と特別講演からなる構成として開始から終了までを2時間30分とした。特別講演は大分大学医学部総合診療・総合内科学講座の宮崎英士教授に「総合診療の魅力 ～複雑困難事例への挑戦～」という演題でご講演いただいた。始めに総合診療の概要説明、続いて、不明熱の診療と複雑困難な問題のマネジメントについての講演があり、講演終了後、血沈検査の重要性、ガリウムシンチやPET検査の適応、大分大学の総合診療の入院加療等について、活発な質疑応答があった。

新型コロナウイルス感染症の収束が見えないなか、感染対策と事業遂行のためには、当面の間、ハイブリッド開催を余儀なくされるが、今後は、リモートでの制約面を補完するためにも音声や映像の安定的なW e b配信については常に配意しつつ、少しでもライブ感を高めるために、効果的な資料（スライド）選定はもちろん、円滑な進行がより重要になってくる。

学術事業は、日々進歩する医学や変化する医療情勢に関する最新の情報を会員に提供するこ

とにより、会員のさらなる医学知識の充実とスキルアップを目的としている。研修会・講演会の内容や開催方法などについて、いろいろとご意見をいただければ幸いである。

| 日 時 | 集 会 名 | テ ー マ | 講 師 | 出席者数 |
|---------------|--------------------|---|---|---------------------------------|
| 令和3年 7月27日 | 学術講演会 | 「ロボット手術の現状と 将来展望－泌尿器科疾患 を中心に－」 | 別府湾腎泌尿器病院 病院長 佐藤 文憲 先生 | 会 員 15 名 |
| 9月28日 | 学術研修会 | 「救急災害医療と脳卒中 －躍進する大分県医療体 制－」 | 大分大学医学部附属病院 高度救命救急センター 副センター長 石井 圭亮 先生 | 会 員 17 名 非会員 2 名 |
| 11月22日 | 第1回医療安全管理 対策研修会 | 「医療安全のための業務 改善活動」 | 大分県厚生連鶴見病院 副院長・医療安全管理室長 加賀 明彦 先生 | 会 員 22 名 非会員 17 名 |
| 令和4年 1月25日 | 第2回医療安全管理 対策研修会 | 「知りたい感染症の見か た」 | 九州大学病院別府病院 内科 講師 山崎 聡 先生 | 会 員 28 名 非会員 2 名 一 般 13 名 |
| 2月26日 | 別府市医師会 学術集会 | 一般演題「8題」 特別講演 「総合診療の魅力～複雑 困難事例への挑戦～」 | 大分大学医学部 総合診療・総合内科学講座 教授 宮崎 英士 先生 | 会 員 26 名 非会員 12 名 |

保 険

令和3年度は翌年度の診療報酬改定に向けて中医協で、「新型コロナウイルス感染症にも対応できる効率的・効果的で質の高い医療体制の構築」「安心・安全で質の高い医療の実現のための医師等の働き方改革等の推進」「患者・国民にとって身近であって、安心・安全で質の高い医療の実現」「効率化・適正化を通じた制度の安定性・持続可能性の向上」の4つの柱で検討され、本体がプラス0.43%、うち医科としてはプラス0.26%となった。

今回、改定項目の1つとして、オンライン診療料が挙げられるが、感染対策向上加算が土壇場になって注目された。

「新型コロナウイルス感染症にも対応できる効率的・効果的で質の高い医療体制の構築」として、現行の感染防止対策加算を感染対策向上加算へと名称を変え、点数が390点から710点へと大幅アップとなった。現行の施設基準から、追加された項目が多い割には、不明な点が多く、また医師会に入ってくる情報もほとんどなかったことから、会員からの問合せに関しても正しい情報を伝えることが出来ずご迷惑をかける事態となった。今後、徐々に全貌が明らかになってくると思われるので、正しい情報を正確にお伝えしていきたいと思う。

新型コロナウイルス感染症に関しては、PCR検査料を本来であれば700点となるところであったが、流行が収まらないことから6月30日までは850点に据え置き、二類感染症患者入院診療加算の算定も期間延長が行われた。ゴールデンウィークを控え、徐々に減少してきた感染者が増大することになると更なる延長も考えられることから、動向を注視していきたい。

個別指導は、昨年までは新型コロナウイルスのまん延に伴い、開催が見送られていたが、再開された。今後も流行を見ながらの開催が予想される。指導の内容はカルテへの記載を中心に指導されることがほとんどである。より一層留意し、漏れなく記載を心掛けていただきたい。

| | |
|------------|------------------------------|
| 令和3年 6月23日 | 第5回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会 (Web) |
| 10月15日 | 第6回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会 (Web) |
| 11月18日 | 個別指導 |
| 12月17日 | 第7回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会 (Web) |

会 員 福 祉

今年度の会員福祉事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度に引き続き夏のレクリエーション、下関市医師会との親善スポーツ大会、三師会合同役員会、忘年会、新年会等、懇親会をとまなうすべての行事が中止となった。

会員同士の情報交換や親睦を深める場でもある上記行事が中止となったことは、残念なことであるが、逆にコロナ禍であるからこそ、会員同士のヨコのつながりの重要性を再認識することにもなった。

また、会全体の会計収支を総合的に検討した結果、令和3年度以降、ゴルフ部、テニス部、ボウリング部、野球部等の部活動に対する補助金については、当面の間見送ることとなり、そのため、各部員の先生方に対しては、限られた予算内で工夫して部を運営していただいていることに関して、改めてお詫びとお礼を申し上げたい。

今は、ポストコロナを見据えて、医師会事業全体の見直しを迫られており、今後の事業運営に際して会員同士の連携や協力は、今以上に必要不可欠であり、そのためにも日常からの会員同士の関係構築は重要である。

コロナ収束後とはなるが、会員各位には医師会行事への積極的な参加をお願いするとともに、医師会行事を利用することで、会員間の連携、病診連携、地域連携構築の一助としていただきたい。

| | |
|------------|---|
| 令和3年 5月23日 | 三師会親睦ゴルフ会 |
| 6月24日 | 第1回ドクターのためのオンライン経営セミナー |
| 7月18日 | 医療機関で働く皆様のためのファイナンシャル・プランナーによる Web・マネーセミナー |
| 11月7日 | 三師会親睦ゴルフ会 |

広 報

会報委員会において編集会議を行うとともに、会報委員会メーリングリスト（ML）において情報交換を行って議論を重ね、医師会報の充実に努めた。

別府市医師会報は、①医師会の主張と広報、②医師会活動の正確な記録、③医師会員の医療活動への意識の啓発、この3点をめざし年に4回の発刊を続けている。

「私のお気に入り」では、『スポーツ観戦』（新緑号）、『夜遊びと体調の変化』（夏季号）、『私が弾かなきゃ誰が弾く』（秋季号）、と題して執筆して頂いた。

「ちょっとお勉強タイム」では、「外国人診療のシステム化へ向けて」（新緑号）、「非B非C型の肝がんについて」（秋季号）、「保険医への指導・監査と問題点」（新春号）など診療に直結する身近なことなど幅広く執筆者の方々から問題提起していただいた。

コロナ禍の影響もあり、会員福祉事業の中止が続いており、それにとまなう報告も誌上掲載できないため、各号の頁数はコロナ前に比して少なくなってきており、加えて随筆の投稿も減少してきている。医師会報が会員の先生方への情報提供・共有ツールとしての役目を担い、編集部一同協力して医師会報の内容充実につとめていきたいと考えているので、引き続き、御意見、御要望なども含めてご協力をお願いしたい。

令和3年 5月11日 夏季号 編集協議会
8月10日 秋季号 編集協議会
11月8日 新春号 編集協議会
令和4年 2月7日 新緑号 編集協議会

医 政

令和3年度は、秋に菅内閣の総辞職にとまなう自民党総裁選挙に続き、岸田内閣発足、直後の解散による第49回衆議院議員総選挙が10月に行われ、別府市医師連盟では、岩屋たけし候補の推薦を機関決定した。選挙戦では、岩屋候補がコロナ感染の収束や経済再生への施策を説明し、次いで少子化・人口減少対策、地域の防災、国防などに言及、持論の自民党改革を訴えて後援会や市町村単位の党支部、友好・支援団体を通じた保守層固めを進めるとともに、自民党支持層の大半をまとめた結果、相手候補に2万9千票余りの差をつけて、無事9選目を果たすことが出来た。

令和4年度には参議院議員選挙が予定されており、既に日本医師会の組織内候補として自見はなこ氏の比例代表区からの立候補が決定しているが、これにとまない自見氏の討議資料やポスター等の配布、サポーター名簿の協力依頼があり、選挙に向けた動きが始まっている。

秋には自見氏ご本人が別府市医師会館に挨拶に訪れ、別府市医師連盟としても継続して支援していくことを確認した。

日本医師会では、新型コロナウイルス感染症の拡大が医療機関経営に与える影響を把握するために、令和2年3月以降、会員医療機関におけるレセプトデータや損益状況等を継続して調査しており、調査結果は概要にまとめられ、定例記者会見で公表後、官邸をはじめ様々な場面で医療機関の経営難、医療提供体制が崩壊危機にある現状を訴えている。

診療科によっては、前年度に比べて収益が大幅減となり経営的にも非常に厳しい医療機関が散見され、新型コロナウイルス感染症は未だに収束が見込めないことから、国や与党に対して、さらなる医療機関経営への支援を求めていく必要がある。

医師連盟としても、「支援や診療報酬の改定率は最終的には政治で決まる。」ということ念頭に置かなければならないが、そのためには日常から政治にしっかり働き掛けていくこと、組織として一致して取り組んでいくことが必要であり、その積み重ねが診療報酬の改定率に影響してくる。

医療情勢は依然として混沌としているが、今後も、医療・福祉・介護の充実はもちろん、医師会活動をスムーズに進めていくためにも医政活動は重要であり、今夏における参議院議員選挙において会員各位の御理解、御協力をお願いする。

会 計

令和3年度正味財産の経常増減（損益ベース）は、全体で1億9400万円増額となった。

各部門間の繰り入れを除くと看護専門学校が約4200万円減少、地域福祉部門が約240万円減少した。地域保健センターは1億5000万円増額、新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた初期救急医療事業は別府市の支援によりプラスとなった。

収支では事業活動収支は全体で1億5470万円のプラスである。

部門別にいくつかの要点を示す。

本会：事業活動収支は、約1070万円のマイナス。看護学科に1100万円、准看護学科に2750万円の繰り入れを行ったことが要因である。西日本シティ銀行から4000万円の借入れを行った。施設管理会計では県より補助金をいただき看護学校の施設整備を行った。

地域保健センター：健診事業では新型コロナウイルス感染症の影響による減収はあったが、別府市が運営するPCR検査センターからの検査受託等により大幅に増収し事業活動収支は1億4900万円のプラスであった。

初期救急医療事業：夜間こども診療、休日内科診療は昨年引き続き新型コロナウイルス感染症による受診控えが影響し大きく減収したが別府市の支援金によりマイナスは避けられた。また臨時的に開設した婦人科診療、発熱外来トリアージセンター・PCRセンターがプラスとなり、事業活動収支は約837万円のプラスであった。

看護専門学校：看護学科は学生数定員割れ、准看護学科は留年生のみの運営であったため約3820万円のマイナスとなった。運営補助として本会から看護学科に1100万円、准看護学科に2750万円の繰り入れを行った。

地域福祉部門：3部門の事業活動収支は、約114万円のマイナス。各部門間の繰り入れを除くと訪問看護ステーションは、約242万円のプラス、居宅介護支援センターは約120万円のマイナス、ヘルパーステーションは約236万円のマイナスとなる。

団体生命保険：今年度は200万円を本会へ繰り入れた。

詳細は各部門の収支明細書に示す。

| | |
|-------------|---------------|
| 令和3年 6月 1日 | 会計部会 |
| 4日 | 会計並びに業務監査 |
| 12月 2日 | 会計部会（部門別予算会議） |
| 6日 | 会計部会（部門別予算会議） |
| 令和4年 1月 26日 | 会計部会 |
| 2月 14日 | 会計部会 |

医 療 情 報

平成 17 年度より懸案事項であった NTT の光回線を利用したプライベートネットワーク網が会員施設を中心に平成 22 年度に完成し、12 年目を迎える。医師会業務システムと地域医療連携システムを 2 本柱とする「ゆけむり医療ネット」が本格的に稼働している。今年度はインフラ整備としては希望する 80 施設のうち 72 施設に光回線を整備したが、1 施設が辞退のため返却された。地域医療連携システムで新別府病院・別府医療センター・厚生連鶴見病院が急性期医療分野として情報を公開しており、平成 25 年度から九州大学病院別府病院が加わった。平成 23 年度に県より助成を受けた地域保健センターも健診画像データや検査データを二次的に有効活用するため基幹病院同様に地域医療連携システムに公開している。平成 27 年度には「地域医療介護総合確保施設設備整備事業」へ薬剤師会と共同で整備し、市内の薬局 67 施設中 65 施設が接続して院外調剤情報を集積して「ゆけむり医療 ID」で参照できる仕組みが整ってきている。4 つの基幹病院と健診・検査センターの情報、院外調剤情報が患者個人の同意の基に共有できるようになっている。さらに東部医療圏（日出町・杵築市・国東市）や在宅医療などへの接続が可能となる仕組みを取り入れ、東部医療圏の地域医療連携システムに 18 の医療機関がモニターとして参加してもらっている。また北部医療圏の 2 施設がモニターを希望したため接続した。東部医療圏に所属する医師会とも話し合い、速見郡杵築市医師会と契約を交わし、年間利用料をいただいている。

基幹病院から医師の記録（カルテ情報）が公開されており、退院する際に患者から同意を取り、かかりつけ医へ公開する運用を取り入れ、カルテ参照率が上がってきている。基幹病院の協力には感謝の念に耐えず今後とも一緒に歩むことを望む。

令和 3 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、活動があまりできなかったが、4 月に応募した第一生命が主催する第 73 回保健文化賞でゆけむり医療ネットの取り組みが評価され、全国から応募された団体 712 件、個人 367 名、あわせて 1,079 件の中から、保健衛生分野の課題に取り組む団体として受賞した。12 月に表彰式と天皇拝謁があり矢田会長が参加し、賞金と記念品をいただいた。

また、地域医療連携パス委員会リウマチ班が 6 月に応募した、日本リウマチ学会とファイザーが公募型の医学教育プロジェクト助成に、診断未確定リウマチ性疾患の病診連携モデル構築プログラムとして、スマートフォンのアプリケーションソフトを使用した患者主体の関節炎スクリーニングツールの作製と紹介状自動作成システムの構築が見事採択され、助成金をいただいた。令和 4 年 7 月～令和 5 年 12 月に実証研究を予定しており、ワーキンググループを作りリウマチ班と検討している。

地域保健センターの健診結果をスマートフォンへ報告する取り組みを開始し、現在では個別の医療機関で受診したデータも反映できるようになった。個人で健診や薬のデータを管理できる PHR の仕組みづくりを進めていき、自分の意思で各機関に提示することは究極のプライバシー保護につながり、同意書の取得を簡素化したいと考えている。

医師会業務は「ゆのはなメディネット」と名付けられたグループウェアとして閉鎖されたネットワークの特色を生かし、メールや掲示板・ファイル管理機能を使い、個人情報が入ったファイルをメールに添付したり、会員の医療機関と医師会の事務局しか開けないフォルダを医療機

関毎に作成し、レセプト代行送信のために医師会に持参しているレセプトファイルを転送するなど効率の良い利用をしている。

インフルエンザ発生状況速報システムは今年で18年目を迎える。昨年度と同様に日々の発生分布状況をアニメーションにし、患者数の推移を一目で分かるよう数字化し、流行している地区を一目で判別出来るよう改善を行った。

色々な課題も含め、今後も医療の専門家集団として、ITに関する提案・検討を各部門と一緒に進めていく所存である。

【医療情報システムネットワーク委員会および医療情報委員会】

令和3年10月4日（第77回） 12月13日（第1回）

令和4年2月28日（第78回）

【地域医療連携パス委員会 CKD 班】

令和3年9月28日（第44回） 11月30日（第45回）

【地域医療連携パス委員会リウマチ班】

令和3年6月16日（第16回） 8月17日（第17回）

- ・ 診断未確定リウマチ性疾患の病診連携モデル構築プログラムワーキンググループ検討会

令和3年12月18日（第1回）

令和4年1月12日（第2回） 2月9日（第3回） 3月9日（第4回）

【地域医療連携パス委員会心不全班】

令和3年6月10日（第13回） 11月10日（第14回） 12月9日（第15回）

令和4年1月20日（第16回） 2月24日（第17回）

《地域保健センター部》

地 域 保 健

① 別府地域保健委員会

「別府地域保健委員会」は昭和44年に県下で初めて発足して以来、別府市の保健行政を支えてきている。この間、医師会は会員の協力のもと、主導的な立場から行政に対し保健・医療・福祉の幅広い分野で支援と助言を行ない、地域の保健医療活動の充実・発展に大きく貢献してきた。

平成16年6月に別府地域保健委員会総会で設置が承認された「別府地域保健運営委員会」は毎月1回開催され、行政側と協議を重ね、保健行政に関して医師会の意見を述べることにより市民の健康増進に寄与している。

各小委員会活動については平成24年度より食育をテーマに妊婦・乳幼児・児童生徒・成人・高齢者のライフステージごとに教育・相談・指導を目的に食育推進小委員会が追加された。

別府地域保健委員会

令和3年8月25日 別府地域保健委員会総会（書面開催）
8月31日 大分県地域保健協議会総会

別府地域保健運営委員会

令和3年4月26日・6月2日・6月30日・7月29日・9月30日・10月28日・11月24日・
12月27日
令和4年2月24日・3月30日

各小委員会

1. 母子保健小委員会（令和3年8月12日）

母子健康手帳の交付、訪問指導の実施、健康診査（乳幼児集団健康診査）の実施、健康相談、教育の実施、医療対策事業（未熟養育医療の給付、不妊治療費等助成事業）、保健所療育事業、育児不安フォローアップ事業、ヘルシースタートおおいた推進事業

2. 学校保健小委員会（令和3年8月3日）

児童・生徒の生活習慣病予防健診、小児生活習慣病健診事後指導、たばこ対策、思春期対策、定期健康診断結果

3. 健康づくり対策小委員会（令和3年8月4日）

健康増進法に基づく保健事業（①健康手帳交付、②健康教育、③健康相談、④健康診査、⑤訪問指導）、各種がん検診（受診者数、要精密者数）特定健康診査・特定保健指導（受診者・受診率・推移）

4. 感染症予防小委員会（令和3年7月30日）

予防接種年度別実施状況、MR 予防接種率、予防接種の普及・啓発、平成29年度一般結核検診状況・結核検診要精密者の状況

5. 歯科保健小委員会（令和3年8月2日）

歯のコンクール、母子歯科保健（1歳6カ月、2歳6カ月、3歳5カ月）、健康教育、健康相談、成人老人歯科保健、妊婦歯科健診、公立保育所・公立幼稚園・小学校でのフッ化物洗口の取組み、歯と口の健康週間行事、各小学校へのポスター、チラシ配布啓発事業

6. 救急医療対策小委員会（令和3年8月6日）

休日在宅当番医制実施事業（初期救急医療）、第二次救急病院群輪番制事業（8医療機関が輪番制で実施）、小児救急医療支援事業（小児第二次救急医療）、小児初期夜間救急医療事業（夜間こども診療・夜間こども薬局）、休日等歯科診療事業、救急搬送状況、献血の普及・啓発

7. 精神保健対策小委員会（令和3年8月16日）

自殺予防対策（自殺予防の普及・啓発、ゲートキーパーの育成、地域での連携体制の構築、地域における相談機能の充実）、予防対策に向けた啓発、取組み

8. 食育推進小委員会（令和3年8月5日）

妊婦・乳幼児・児童生徒・成人・高齢者のライフステージごとに教育・相談・指導を実施。また、各世代共通として広報等の実施。

② 予防接種

令和3年度は、新型コロナワクチン接種が医療従事者から開始され、高齢者・65歳以上と徐々に対象年齢が下がり、3月からは5歳～11歳への小児への接種も開始され、ほぼ全年齢への接種が行われた。高齢者から30代まではおおよそ80%程度の方が3回目の接種を行っているが、現在感染の中心となっている10代・20代への接種率は低く、またワクチンの種類によっては接種しないことを選択する風潮があり、国や市町村も様々な手段を持って接種勧奨を行っているが、いまだ効果が出ていない。情報過多になり、間違った情報を信じ込んでいるようで、国には正しい情報を伝える方策を今一度考えて頂き、接種率の向上に努めて頂きたい。

また接種後の副反応により積極的勧奨を見合わせていた子宮頸がんワクチン接種の勧奨が再開された。

積極的勧奨を見合わせていた時期に対象期間から外れていた年代もキャッチアップするという事で通常の対象年齢に追加されることになった。

新型コロナワクチン製造のため、他のワクチン製造に手が回らず、供給不足が起きる可能性も想定されるが、そのような情報は逐次会員へお伝えすることとしている。

地 域 医 療

令和元年11月に中国武漢で新型コロナウイルスの発生が確認され、同年12月31日に最初に世界保健機関(WHO)に報告された。その後、元年から翌2年にかけて発生した中国武漢でのアウトブレイクにおいて病原体を調査している中国・国家衛生健康委員会(NHC)専門家の鍾南山グループ長は、広東省でヒトからヒトへの感染(ヒト→ヒト感染)が確認されたと発表し、大分県では令和2年3月に初めて確認されて2年と3ヶ月が過ぎようとしているが、感染した人は39,000人を超え、各地でクラスターが発生するなど、収束の兆しが一向に見えないまま現在に至っている。

政府は長期間にわたって感染拡大を防ぐために、飛沫感染や接触感染、さらには近距離での会話への対策を、これまで以上に日常生活に定着させた「新しい生活様式」を作り国民へ周知徹底を呼び掛けている。また、新型コロナウイルス感染症のまん延予防を目的に、円滑なワクチン接種を実施するため、令和3年2月から医療従事者へのワクチン接種が始まり、3回目接種を終えて4回目の話が出ている。

一般も3回目の接種が進み、11歳以下の接種も始まったが接種率が悪く、集団免疫を獲得するにはまだまだ先となる見込みである。

一方で令和4年明けから爆発的に国内で新型コロナウイルス感染者が増えたのは、感染力の強いオミクロン株(BA.1株)が原因でそれまで流行していたデルタ株と比べて重症化リスクは低いものの、強力な感染力と自覚症状の薄さであったという間に全国に拡大、令和4年4月現在も少しずつ減ってはきているがまだ新規感染者数は高止まりしており、収束の兆しを見せていない。オミクロン株(BA.1株)による第六波が収束する前に、より感染力の強い亜種・ステルスオミクロン(BA.2株)が登場したことで、このままステルスオミクロン(BA.2株)による第七波が来るのではないかと危惧されている。海外でもすでにオミクロン(BA.1株)からステルスオミクロン(BA.2株)に置き換わっているイギリスやデンマークなどの例もあり、日本でも徐々に各地でステルスオミクロン(BA.2株)感染者が出ており、置き換わるのも時間の問題と推定している。

また、新型コロナウイルスの治療薬としては国外の製薬会社が発表し、承認を得ているが現在主流のオミクロン株およびステルスオミクロン株(BA.2株)でも細胞レベルで活性が落ちないことがいわれている。国内の製薬会社からも重度のコロナ感染症に進行する可能性のある外来患者を対象として臨床試験が行われている。

政府も新型コロナウイルスが季節性インフルエンザと同様に扱えるように感染症分類を2類から5類へ下げる議論を始めている。5類に下げると、患者の受け入れ先が増え、保健所は入院調整が必要なくなり業務の逼迫(ひっぱく)は避けられる。感染者の就業制限もなくなるが、患者にとって医療費の扱いが最大の焦点となり、治療やワクチン接種が自己負担になると、敬遠する人が増え、水面下で感染が拡大する恐れが否めない。治療費は多面的な検討が必要になるが、治療環境が万全でないこともネックになっている。新型コロナウイルスがもたらした災禍から脱し、「ウィズコロナ」を定着させ、以前の生活に戻っていけることを望んでいる。

このようないつ起こるか分からない災害に備え、地域医療支援として、住民に対し、医療機関が連携して何ができるかを検証し、安全で質の高い医療の提供だけでなく、災害時に必要な

医療情報の提供や情報伝達ができる連携網の構築を行政にも働き掛け、積極的に進める必要がある。光ファイバーで医療機関を結んだ「ゆけむり医療ネット地域医療連携システム」が開始11年目を迎え、地域医療の支援ツールとして、災害と医療をテーマに新たな仕組みによる質の高い医療と情報の連携が期待できる。

今年度も市民救急フォーラムは昨年同様に新型コロナウイルス感染拡大対策のため中止となった。

健診・検査

平成22年に西野口町の自衛隊保養所「スパシオン」跡地に別府市と三師会（医師会、薬剤師会、歯科医師会）の協力により、健康づくりの拠点複合施設として別府市保健センター「湯のまちけんこうパーク」がオープンし、健診と夜間こども診療部門が移転してから12年が経過し、令和3年度もここで業務を行った。

平成20年度より始まった特定健康診査（特定健診）が、30年度を第3期として新たに5年計画で4年目を迎えた。計画期間の実施率の目標は特定健診・保健指導の実施率をそれぞれ70%・45%に維持することを国が掲げている。別府市国保では受診勧奨を行っているが、今年度も引き続き新型コロナウイルス感染拡大対策の影響があり受診率が伸び悩んでいる。

協会けんぽ生活習慣病予防健診は、令和2年度は2,581件であったが、令和3年度は2,271件で310件の減となり、人間ドックでは令和2年度は29件、令和3年度は34件で、5件の増となった。

労働安全衛生法に基づく事業所検診は、令和2年度は5,518件であったが、令和3年度は4,838件となり、680件の減となった。

協会けんぽ生活習慣病予防健診の収入は、令和2年度は39,408,566円に対して、令和3年度は33,519,478円で5,889,088円の減収となった。

人間ドックの収入は、令和2年度は541,400円に対して、令和3年度は770,952円で229,552円の増収となった。

事業所検診、別府市職員健診関係、病医院従業員・職員健診の収入は、令和2年度は25,833,064円に対して、令和3年度は23,879,794円で1,953,270円の減収となった。

医師国保健診、歯科医師国保健診、原爆被爆者健診等の生活習慣病健診の収入は、令和2年度は2,110,036円に対して、令和3年度は2,201,218円で91,182円の増収となった。

別府市がんセット検診、住民検診、特定健診関連の収入は、令和2年度は35,855,188円に対して、令和3年度は38,086,537円で2,231,349円の増収となった。主な要因はがんセット検診の受診者は増だったが、特定健診（集団）、肺がん検診が人数予約制となり令和2年度は新型コロナウイルス感染予防対策の影響で健診が自粛となったが、令和3年度は少し回復したため増収となった。

学校検診と心臓検診（委託料収入）の収入は、令和2年度は12,436,132円に対して、令和3年度は12,391,778円で44,354円の減収となった。

予防活動収入は、令和2年度は2,750,610円に対して、令和3年度は1,516,120円で1,234,490

円の減収となった。主な要因は令和2年度に競輪選手と関係者へ新型コロナ抗原定性検査を行ったが、令和3年度は無かったのでその影響で減収となった。

機器共同利用は、令和2年度は319件、1,943,621円に対して、令和3年度は255件、2,347,397円で403,776円の増収となった。主な理由は前年まで契約をしていたファルコ社の検査が年度を超えて収入として入ってきたため増収となった。

特定保健指導は、大分総合健診センター、大分県厚生連健康管理センター、医師会地域保健センターの3機関で行っているが、令和2年度は339件、2,587,683円に対して令和3年度は292件、2,246,895円で340,788円の減収となった。

健診事業の利用収入の総計では、令和2年度は123,466,300円に対して、令和3年度は116,359,284円で7,107,016円の減収となった。(補助金、繰入金、委託料収入等を除く)

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大対策のために別府市からのPCR検査委託事業や東部保健所からのPCR検体回収及び濃厚接触者の検体採取・PCR検査委託事業、別府大学と別府商工会議所からの職域予防接種委託業務などの委託料収入があり、会員から一般検査でのPCR検査依頼も含めると373,191,824円となり、健診業務だけでは減収だったが新型コロナウイルス関連の委託料収入で366,084,808円の大幅な増収となった。

令和3年度に健診で発見された、がん症例は、肺がん0名、胃がん0名、乳がん4名であった。肺がん・胃がん・乳がんの発見にご尽力いただいた読影委員会は、令和3年度は胸部班15名でのべ217回、胃部班10名でのべ192回、マンモグラフィー班6名でのべ147回の読影をして頂いた。受診者に対しては例年3ヶ月後に見直しと精密検査勧奨を行っている。

令和2年度の二次精密検査受診率は胃部X線71.8%(令和元年度68.2%)、胸部X線45.1%(同66.7%)及び心電図56.8%(同70.2%)、マンモグラフィー90.9%(同93.1%)で前年度と比較し胃部X線が3.6%上昇、胸部X線が21.6%、マンモグラフィーが2.2%下降、心電図が13.4%下降した。

検査に関しては平成18年度よりファルコ社との5年契約3度目15年間の契約が昨年3月で満了を迎え、鋭意検討した結果、昨年4月からBML社と外注契約しているため、検査部門が廃止され、健診部門へ統合された。依頼検体はBML大分営業所で検査され、特殊な検査については福岡ラボで行っているため緊急検査に時間がかかるなどの要望が会員からあり10月からスモールラボを開設し、機器と試薬はBMLが持ち、検査業務は健診部門の検査技師1名が輪番で限られた項目(下記参照)のみを検査している。

| | |
|-----------|---|
| 生化学的検査 | 肝機能 (AST (GOT)・ALT (GPT)・γ-GTP・総ビリルビン)、 電解質 (ナトリウム・カリウム・クロール) 腎機能 (尿素窒素・クレアチニン)、膵機能 (アミラーゼ)、CRP |
| 血液学的検査 | 末梢血液一般、血液ガス、血沈 |
| 尿・糞便等一般検査 | 尿定性 |

集配業務についてはBMLが担うと検体以外の封書などがコンプライアンス的に預かれないことから医師会で集配を運営し、従来と同じように会員からの封書などを預かれるようにした。

昨年6月より無症状者が予約せずに無料で検査を受けることができる「別府市PCR検査センター」が市内の旧山の手中学校の敷地内で開設し、検体採取と抗原検査は県内企業の「アドテック」が無症状者のモニタリングも兼ねて担当し、遺伝子検査を医師会地域保健センターが担当した。

開設時間は10時から19時まで受付し、抗原定性検査は約30分、遺伝子検査は15時までに受け付けた検査は同日19時ごろまで、それ以降のものは翌日正午までに結果が判明する。検査結果の通知については結果が陽性だった場合のみ別府市PCR検査センターから本人に電話で連絡する運用となった。

検査状況は令和3年6月23日から令和4年3月31日まで34,086名が検査をし、陰性が33,566名、陽性者は520名となっている。地域保健センターの職員が担当し、検査技師の正職員3名とパート3名、検体回収と入力・報告業務は検査技師を除いた職員13名全員で職種を問わず輪番制で対応している。

特定健診の検査依頼からデータ入力・報告書作成、国への報告・請求データファイルの作成までの業務代行を地域保健センターへ業務移管し、それぞれの個別医療機関で実施した特定健診データを個人のスマートフォンのアプリに結果を返すサービスをゆけむり医療ネットで始めている。

BML社との協議する場として検査委託先との協議会を開催し、検査実績報告や問題点などを協議している。

【地域保健センター運営連絡会】

令和3年7月15日（第1回） 9月30日（第2回） 11月25日（第3回）
令和4年1月13日（第4回） 3月10日（第5回）

【検査委託先との協議会】

令和3年3月8日（第1回） 4月28日（第2回） 5月19日（第3回）
9月29日（第4回） 12月14日（第5回）

【学会並びに研修会】

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により学会並びに研修会は中止となった。

学 校 医

本年も新型コロナウイルス感染症の勢いが衰えず、学校医活動も引き続き影響があった。更には、第6波に入り若年層への感染が始まり、部活動を起因とするクラスターが発生するなどこれまでとは異なる感染が起きている。

会議についても全国学校保健・学校医大会はWeb開催、大分県医師会学校医部会定例総会は書面決議、別府市学校保健大会は感染状況を鑑み、今年の開催が見送られた。

今年度も、学校医に数名の辞退申出があったが、皆様の御協力により、後任選出もスムーズに移行することが出来た。しかしながら、眼科や耳鼻咽喉科、さらには小児科の先生方には年々負担が増える傾向にある。

皆様方の更なるご協力をお願いしたい。

令和3年10月30日 第52回全国学校保健・学校医大会（Web開催）

12月24日 大分県医師会学校医部会定例総会（書面決議）

産 業 医

今年度は入・退会などで、合計90名の認定産業医が所属している。

産業保健事業については、平成26年4月より産業保健センター事業、地域産業保健事業、メンタルヘルス対策支援事業の3事業が一元化され、大分県中部地域産業保健センターとして、産業保健活動総合支援事業を実施している。

大分県中部地域産業保健センターには、代表として別府市医師会長、運営主幹として担当理事が委嘱されている。事業の目的・事業内容・方法等は下記の通りであるが、現在、別府市医師会では34名の産業医と地域保健センター所属の2名の保健師が、健康診断後の特定健康相談、メンタルヘルス相談、長時間労働者の面接指導にあっている。

また、大分県医師会主催の産業医研修会については、昨年度に引き続きテレビ会議システムを利用した研修会が始まり、本会では第2回から第5回まで合計4回の開催について会場提供というかたちで協力した。3密対策として会場の収容人員を半数にした20名に制限しての開催とはなったが、大分県医師会館から配信される内容を視聴するという形式は、参加者が日常の診療後に大分県医師会館まで出向かなくてよいため、参加者からは概ね好評であった。

ただし、サテライト会場という制限があるため、スライド・映像の共有、音声の調整、質疑応答の際の対処など、大分県医師会館と同じ条件での聴講を担保するためには、今後、万全な環境準備が求められる。

【令和3年度地域産業保健事業・概要】

事業内容：産業医等の選任義務のない50人未満の小規模事業場の事業主および労働者に対し、労働者の健康管理等の産業保健サービスを実施する事業

①健診後の特定健康相談

- 健康診断結果に基づく医師の意見聴取
- 脳・心臓疾患のリスクが高い労働者に対する保健指導
- メンタルヘルス不調の労働者に対する相談・指導

②長時間労働者に対する面接指導

③高ストレス者に対する面接指導

実施方法：労働者からの依頼を受け、労働者の利便性を考慮しながら、協力を申し出ている登録産業医へコーディネーターから日程調整を行う。

指導料等：指導料 12,300 円 / 時間 + 相談場所提供料 5,000 円

大分県中部地域産業保健センター

運営協議会（紙面開催）

大分産業保健総合支援センター

令和3年8月5日 産業医研修会（於：別府市医師会）

9月16日 産業医研修会（於：別府市医師会）

大分県医師会

令和3年9月7日 第2回産業医研修会（於：別府市医師会 テレビ会議）

10月22日 第3回産業医研修会（於：別府市医師会 テレビ会議）

11月19日 第4回産業医研修会（於：別府市医師会 テレビ会議）

令和4年1月27日 第5回産業医研修会（於：別府市医師会 テレビ会議）

健康スポーツ医

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出自粛、在宅勤務の推進、運動施設の営業自粛などが行われていることで、国民全体として身体活動が大幅に減少しているが、特に中高年齢者については、体力の低下、生活習慣病（糖尿病・高血圧・心疾患等）の発症や生活機能の低下（骨や関節、筋肉等の運動器が衰えるフレイルやロコモティブシンドローム、認知症等）をきたすリスクが高まっている。

このため、意識的に運動・スポーツに取り組むことは、健康の保持だけでなく、将来的な要介護状態を回避するにも有効であり、運動療法による疾患治療効果について多くのエビデンスが蓄積されつつある昨今において、慢性閉塞性肺疾患（COPD）や慢性腎臓病（CKD）に運動療法の適応が認められるようになり、高齢化が進むなかで生活習慣病予防のためにも、スポーツを通しての健康維持と増進が必要不可欠である。

今年度は、夏に1年延期となった東京オリンピック、冬到北京オリンピックが開催されたこともあり、国民のスポーツに対する関心と意識が高まる契機ともなったが、これと連動するかたちでスポーツ庁では、「医療と連携した地域における運動・スポーツの習慣化」を提唱し、誰もが身近な地域で安心してスポーツを楽しめる環境整備を推進している。

コロナ禍の影響もあり、その実践と取り組みについては、従来以上にかかりつけ医、健康スポーツ医、学校医、産業医の協力と連携が重要となっており、とりわけ健康スポーツ医への期待と求められる責任は大きなものとなっている。

令和3年度の日医認定健康スポーツ医は、入会・退会・更新等を含めて、合計14名となっているが、単位更新については、大分県内で開催される認定再研修会の機会が少ないという問題もあり、先生方には県外で単位修得していただくケースも少なくない。

日本医師会認定健康スポーツ医制度は、更新要件として、再研修会の受講修了だけではなく、健康スポーツ医としての活動（学校、職場、地域等におけるスポーツ医学の立場からの指導・教育・診療活動等）が義務付けられているが、会員の増加や単位修得に関しては、別府市医師会主催で再研修会を開催するなど、これまで以上に努力していく必要がある。

令和4年1月15日 令和3年度大分県医師会講演会（スポーツ医学）

初期救急医療事業

夜間こども診療の令和3年度を受診者数は2,506人（令和2年度1,798人）で、過去最低の受診者数を記録した昨年度よりは708名増加したが2番目に低い受診者数を記録する事態であった。

昨年度と同様の理由ではあるが、感染対策（マスク着用と手洗い）の重要性を浮き彫りにする結果であった。本来であれば大幅な赤字に転落するところであったが、本年度も市の援助により何とかほぼ昨年度並みに落ち着いた。今年度もこの様な状況がいつまで続くか予想もつかないが、存続を希望する別府市を含む東部医療圏域の市町村と協力し、運営維持を行っていく

所存である。

二次医療機関への転送は 83 件（令和 2 年度 74 件）と昨年度より 9 件の増であった。

内訳は、疾病によるものが 44 件（令和 2 年度 34 件）、外傷などの外的要因のものが 39 件（令和 2 年度 40 件）と昨年度より疾病は 10 名増、外傷は 1 名減であった。

休日内科診療は、本年で 5 年が経過したが、先にも述べた受診控えと感染症対策のためか今年度は 99 名（令和 2 年度 110 名）と前年度と比べて 11 名の減となった。こちらも夜間子どもと同様の理由で減少したと思われる。在宅当番医の医療機関のひとつとして毎月第一日曜日を担当してきているが、在宅当番医の参加施設が年々減少してきており、今後制度を継続するためには、センター化も一つの選択肢として考えないといけない時期に差し掛かっている。

岩永成晃先生の協力の下、昨年 11 月より開始した婦人科診療だが、新たに中山先生が婦人科診療所を開設され、当初の目的を達成できたことから 12 月末を持って終了した。ご協力頂いた岩永成晃先生と看護師の方には深く感謝を申し上げます次第である。

国もまん延防止重点措置法も終了させ、ゴールデンウィークも特段の規制を敷かず、ウィズコロナを押し進めていくことから、新型コロナウイルスとどの様に付き合っていけばよいのかこれから模索し、市民が安心・安全に受診出来る仕組づくりを目指し、今後も努力していく所存である。

令和 3 年 5 月 10 日 第 1 回初期救急医療事業運営連絡会

《看護教育部》

准 看 護 学 科

准看護学科は令和元年度に募集停止をしていたので、令和3年度の新入生はいない。昨年度の留年生7名（内、男子1名）でスタートしたが、前期に進路変更にて男子1名が退学。また、女子1名が実習成績に抵触し退学が決定。卒業は女子5名となった。准看護師試験には5名全員が合格できた。

この学年は、1年次に留年が出来ない事から学科試験に再々試や課題提出を認めるなど考慮した学年でもあったので、早い時期より学習強化を試みたが、2年次早々の終了試験の平均点が昨年度の学生よりも20～30点も低く、中々学習効果が表れず、6月上旬の早い時期に留年が決定した学生であった。

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行により、感染対策を実施しながらクラス運営を行った。実習では、臨地実習が実施出来るのか懸念されたが、今年度は計画通りに臨地で行えた。1日4回の体温測定や体調の変化の把握を徹底管理した。また、施設によっては、毎週月曜日に抗原検査を実施し、陰性を確認してから実習を開始する等対策を実施した。

准看護師試験の取り組みとして、例年よりもさらに成績が低迷している留年生の学習を強化する為に、2年次をスタートした当初より継続して課題の提示と、学習効果をみながら個別に学習支援を行った。また、昨年より2か月早い10月より、教員が手分けして「人体のしくみと働き」と、それに関連する「成人看護」の補習講義に力を注いだ。

その結果、1月中旬過ぎより成績向上が見られた。さらに、毎回の模擬試験後の60%以下となった得点率の問題を解説することで、知識の定着に繋がったと思われる。

厳しい財政の中、今年度は留年生のみの卒業生を送り出し閉業となった。依然として学校を取り巻く状況は厳しいため、今後とも会員各位のご理解とご協力をお願いしたい。貴重な援助を無駄にしないよう、よりレベルの高い看護師を育成していく努力を続けていく所存であるので、ご指導ご鞭撻をお願いしたい。

- 令和3年4月1日 前期始業式 ※新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、科別に実施
- 6日 採血・採尿・胸写
- 5月8日 看護の日 ※新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、科別に実施
- 火災避難消防訓練
- ※新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、科別にDVD学習
- 10日～28日 成人老年看護実習Ⅰ
- ※新型コロナウイルス感染の影響により学内実習に変更
- 6月7日～8月27日 2年生：成人老年看護実習Ⅱ・手術室実習、老人ホーム実習、母子看護実習
- 7月21日 健康診断
- 7月24日～8月14日 夏季休暇
- 8月1日 中四九地区医師会看護学校協議会 ※オンライン研修
- 9月6日 第1回全国模擬試験

- 9月27日～10月8日 精神看護実習
10月25日～11月15日 成人老年看護実習Ⅲ
16日 第2回全国模擬試験
12月23日～4年1月4日 冬季休暇
12日 第3回全国模擬試験
2月2日 卒業判定会議
15日 大分県准看護師試験
17日 「看護に対する私の思い」発表
3月3日 卒業式・送別会

看護学科

令和3年4月1日に、令和3年度別府市医師会看護専門学校入学式が行われた。看護学科1年(36回生)は27名(内男子6名)が入学し、留年生1名を合わせて28名でスタートした。

令和3年度入学試験は、推薦枠で9名(内男子3名)、一般一次で21名(内男子6名)、追加募集で5名(内男子1名)、合わせて35名(内男子10名)に入学許可を出したが、入学者は27名(内男子6名)に留まり、定員の45名を大きく下回る結果となった。

2年(35回生)は29名(内男子7名)が進級し、留年生1名を合わせて30名でスタートした。3年(34回生)は33名(内男子9名)が進級し、留年生2名(男子2名)を合わせて35名(内男子11名)でスタートした。令和3年度は全学年で成績不良や家庭の事情を理由に退学したものは3名であった。

令和3年度看護師国家試験は令和4年2月13日に行われ、34回生35名が受験し35名が合格した。全国平均は96.5%であった。

令和4年度の新2年生(36回生)は30名(内男子7名)、新3年生(35回生)は25名(内男子6名)でスタートする。

令和4年4月の3年課程への課程変更に伴い、今年度より看護学科2年課程の入学者はいない。課程変更を行っていくにあたって、本会より多額の補助金繰入が必要となっている。

当看護学校を卒業した看護師は、地元への就職率が非常に高く、長年にわたり地域医療に貢献してきた。質の良い看護師養成のためには、優秀な指導者の養成・確保と環境整備は重要な課題である。教員の数の充実と定期的な指導者養成プログラムへの参加、適正な講師料設定による人材確保など今後も努めていきたい。

会員の皆様の貴重な援助を無駄にしないよう、よりレベルの高い看護師を育成していく努力を続けていく所存であるので、ご指導ご鞭撻をお願いします。

- 令和3年4月1日 前期始業式
1日 入学式
2日 新入生ガイダンス
6日 1年生：健康診断(採血・採尿・胸写)
8日 2年生：健康診断(採血・採尿・胸写)

| | |
|-------------|------------------------|
| 5月8日 | 看護の日及び火災避難消防訓練 |
| 17日～19日 | 1年生：宿泊研修 |
| 6月2日 | 3年生：健康診断（採血・採尿・胸写） |
| 8日 | 1年生：健康診断（内科診察） |
| 12日 | 2年生：健康診断（内科診察） |
| 7月24日 | 3年生：健康診断（内科診察） |
| 28日 | 3年生：模擬試験 |
| 8月1日 | 中四九地区医師会看護学校協議会（オンライン） |
| 5日～29日 | 1年生、3年生：夏季休暇 |
| 6日～25日 | 2年生：夏季休暇 |
| 8月28日～9月12日 | 2年生：前期試験 |
| 9月6日～8日 | 1年生：前期試験 |
| 20日～22日 | 2年生：宿泊研修（学内で集中講義に変更） |
| 10月2日 | 3年課程推薦入学試験 社会人入学試験 |
| 11月6日 | 3年課程一般一次入学試験 |
| 9日 | 3年生：模擬試験 |
| 19日 | 令和3年度推薦入学試験 |
| 28日 | 3年生：大分県病院学会出席（WEB） |
| 12月6日～23日 | 2年生：基礎看護実習 |
| 6日 | 3年生：模擬試験 |
| 15日 | 3年生：後期試験 |
| 20日 | 3年生：模擬試験 |
| 23日～4年1月4日 | 1年生：冬季休暇 |
| 26日～4年1月5日 | 2年生：冬季休暇 |
| 23日～4年1月3日 | 3年生：冬季休暇 |
| 4日 | 3年生：模擬試験 |
| 18日 | 令和3年度一般入学試験（一次募集） |
| 8日～20日 | 2年生：後期試験 |
| 24日～26日 | 2年生：保育所実習（3日間）前半 |
| 24日 | 3年生：模擬試験 |
| 31日 | 3年生：模擬試験 |
| 1月31日～2月2日 | 2年生：保育所実習（3日間）後半 |
| 2日 | 卒業判定会議 |
| 5日 | 3年課程一般二次入学試験 |
| 8日～9日 | 2年生：母性・市役所実習 |
| 8日～16日 | 1年生：後期試験 |
| 13日 | 第110回看護師国家試験 |
| 14日 | 2年生：領域別実習開始 |
| 24日 | 令和3年度一般入学試験（追加募集） |
| 3月1日 | 3年生：看護観発表 |

| | |
|--------|-----------------------------------|
| 2日 | 卒業式 |
| 3日～31日 | 1年生：春季休暇 |
| 23日 | 単位修得判定会議 |
| 26日 | 全員登校日（成績表配付） 学校長より単位未修得者への言い渡し |

別 大

令和3年度の「別府市医師会との講師連絡協議会」は実施しなかった。

別府大学附属看護専門学校は、昭和45年4月に創設され、令和4年3月31日をもって52年の歴史に幕を閉じた。

令和2年度の入学生（第51回生1年次）は21名であり、高等学校衛生看護科から2名、准看護師養成所から19名、別府市医師会看護専門学校准看護学科からは4名（新卒3名・既卒1名）であった。

令和4年3月に卒業した19名（第51回生2年次）の県内への就職者は、15名であった。

第111回看護師国家試験の合格者は、19名、合格率は100%であった。

平成14年に開設された明豊高校看護科（5年一貫教育制）における令和3年度入学の高校本科1年は28名（うち男子1名）、2年34名（うち男子1名）、3年23名（うち男子1名）、専攻科1年35名（うち男子2名）、2年35名（うち男子1名）である。16回生の卒業生数は35名で、令和3年度看護師国家試験に35名が受験し、合格率は97.1%であった。16回生の就職状況は県内30名、県外4名、進学1名で、そのうち別府市内への就職は17名である。現在、明豊高等学校看護科の講師として、10名の医師会会員の先生方にご協力いただいている。

看護職研修会

看護職研修会は別府市医師会の医療機関で働く看護職の資質の向上等を目的として、実行委員会が研修を企画、運営をしている。実行委員は、3年毎に別府市内の医療施設より選出いただき、計6名が年に数回委員会を持ち活動している。

令和3年度は、毎年開催していた「フィジカルアセスメント」研修を再開した。新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されたが、時間の短縮と内容の縮小をして実施した。

令和3年度に実施した看護職研修会行事および実行委員会は以下の通りである。

I. 予定されていた研修会

① フィジカルアセスメント（呼吸器・循環器・消化器）

日時：令和3年10月9日（土）9：00～13：00

場所：大分県立看護科学大学 実習室

講師：大分県立看護科学大学 看護アセスメント学研究室

教授 藤内 美保先生

II. 実行委員会

① 第1回実行委員会

日時：令和3年6月26日（土）13：00～14：00

② 第2回実行委員会

日時：令和4年3月5日（土）13：00～14：00

《地域福祉部》

令和3年度の地域福祉部門実績については、以下のとおりである。

1. 訪問看護ステーション

(営業報告)

年間新規利用者数 57 名 (47 名) (以下かっこは前年度)、終了者 69 名 (42 名) で年間利用者数増減は -12 名 (-5 名)。月末利用者数平均 57 名 (56 名)、訪問回数平均 329 回 (309 回)。利用者数は微減であるが、訪問回数が増加している。

(会計報告)

年間事業収益 31,355,274 円 (30,872,057 円)、年間事業経費 28,860,669 円 (32,809,203 円)、年間事業利益 2,494,605 円 (-1,937,146 円)。引き続きコロナ感染対策費は必要であるが、昨年度のコロナ感染対策費より減少し黒字決算となった。

2. 居宅介護支援センター

(営業報告)

年間ケアプラン作成 1101 件 (992 件)、認定調査 61 件 (31 件) と前年度より大きく実績増加した。

(会計報告)

年間事業収益 12,635,761 円 (10,612,257 円)、年間事業費用 13,815,320 円 (11,383,090 円)、年間事業利益 -1,179,559 円 (-770,833 円)。

人員増加し案件数及び事業収益は増加したが、人件費も増加したため結果的に利益はマイナス幅が増加し、今後人員をいかにするか課題が残った。

3. ヘルパーステーション

(営業報告)

年間新規利用者数 12 名 (12 名)、終了 13 名 (15 名)、月末利用者平均 30.4 人 (35 人)、訪問回数平均 192 回 (235 回) で、大きく訪問回数が減少した。

(会計報告)

年間事業収益 6,810,588 円 (8,033,958 円)、年間事業費用 9,165,482 円 (9,927,645 円)、年間事業利益 -2,354,894 円 (-1,893,687 円)。利用者数及び訪問回数が減少し、減収減益となった。

総評としては地域福祉3部門で見ると訪問看護ステーションは黒字であるが他2部門、特にヘルパーステーションの減収減益が響き、-1,039,848 円となった。抜本的にヘルパーステーションの運営をいかにするか検討が必要となっている。

訪問看護ステーション

訪問看護ステーション利用状況

| 令和2年度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 新利用者数(名) | 6 | 5 | 2 | 4 | 3 | 2 | 2 | 4 | 6 | 1 | 8 | 4 |
| 終了者数(名) | 6 | 3 | 5 | 6 | 3 | 2 | 4 | 0 | 3 | 6 | 2 | 2 |
| 月末現在数(名) | 57 | 59 | 56 | 54 | 54 | 54 | 52 | 56 | 59 | 55 | 61 | 63 |
| 訪問回数(回) | 316 | 289 | 336 | 287 | 273 | 297 | 303 | 289 | 350 | 282 | 325 | 366 |
| 令和3年度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 新利用者数(名) | 8 | 5 | 4 | 5 | 5 | 7 | 6 | 8 | 2 | 2 | 2 | 3 |
| 終了者数(名) | 11 | 7 | 3 | 5 | 4 | 5 | 5 | 6 | 6 | 8 | 2 | 7 |
| 月末現在数(名) | 58 | 56 | 57 | 57 | 58 | 60 | 61 | 63 | 59 | 53 | 53 | 49 |
| 訪問回数(回) | 346 | 322 | 370 | 345 | 380 | 342 | 338 | 339 | 308 | 298 | 263 | 297 |

訪問看護ステーション運営委員会

令和3年7月28日・10月4日・令和4年1月17日

九州・沖縄ブロック研修

令和3年10月23日

精神保健対策小委員会

令和3年8月16日

別府市インクルーシブ防災難病患者等医療的ケアを要する方のネットワーク会議

令和3年8月18日・11月1日・12月9日・令和4年3月7日

居宅介護支援センター

居宅介護支援センターケアプラン作成状況

| 令和2年度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|----------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 要介護1 | 37 | 35 | 35 | 34 | 30 | 34 | 33 | 34 | 34 | 35 | 34 | 33 |
| 要介護2 | 12 | 14 | 17 | 15 | 16 | 14 | 16 | 17 | 19 | 20 | 17 | 15 |
| 要介護3 | 10 | 8 | 9 | 10 | 9 | 9 | 9 | 9 | 7 | 6 | 5 | 5 |
| 要介護4 | 11 | 11 | 9 | 7 | 7 | 9 | 8 | 7 | 6 | 4 | 5 | 6 |
| 要介護5 | 7 | 8 | 6 | 5 | 6 | 4 | 7 | 7 | 8 | 7 | 7 | 9 |
| 総計 | 77 | 76 | 76 | 71 | 68 | 70 | 73 | 74 | 74 | 72 | 68 | 68 |
| 予防介護(委託) | 12 | 11 | 10 | 10 | 12 | 11 | 11 | 12 | 11 | 9 | 8 | 8 |
| 令和3年度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 要介護1 | 33 | 37 | 41 | 42 | 42 | 42 | 44 | 48 | 47 | 46 | 43 | 44 |
| 要介護2 | 16 | 16 | 17 | 17 | 15 | 16 | 16 | 15 | 16 | 18 | 17 | 16 |
| 要介護3 | 6 | 6 | 8 | 6 | 9 | 9 | 9 | 9 | 8 | 10 | 12 | 14 |
| 要介護4 | 6 | 6 | 9 | 9 | 12 | 11 | 10 | 10 | 10 | 8 | 6 | 5 |
| 要介護5 | 10 | 8 | 9 | 7 | 8 | 9 | 8 | 7 | 7 | 6 | 8 | 7 |
| 総計 | 71 | 73 | 84 | 81 | 86 | 87 | 87 | 89 | 88 | 88 | 86 | 86 |
| 予防介護(委託) | 8 | 8 | 7 | 8 | 10 | 10 | 8 | 7 | 7 | 7 | 7 | 8 |

申請代行・認定調査

| 令和2年度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 人数(名) | 8 | 2 | 3 | 2 | 1 | 3 | 3 | 2 | 3 | 1 | 2 | 1 |
| 令和3年度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 人数(名) | 5 | 3 | 4 | 6 | 3 | 5 | 5 | 7 | 6 | 4 | 5 | 8 |

別府市介護支援専門員協会総会・研修会

令和3年11月9日

居宅介護支援センター運営委員会

(訪問看護ステーション運営委員会と同時に開催)

ヘルパーステーション

ヘルパーステーション利用状況

| 令和2年度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 新利用者数(名) | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 2 | 1 | 0 |
| 終了者数(名) | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | 4 | 1 | 0 | 2 |
| 利用者数(名) | 37 | 37 | 35 | 35 | 34 | 36 | 37 | 34 | 33 | 34 | 35 | 33 |
| 訪問回数(回) | 289 | 249 | 269 | 256 | 227 | 233 | 258 | 226 | 192 | 189 | 196 | 232 |
| 令和3年度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 新利用者数(名) | 2 | 0 | 1 | 2 | 2 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 終了者数(名) | 3 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 2 | 1 |
| 利用者数(名) | 30 | 30 | 29 | 31 | 32 | 31 | 30 | 32 | 30 | 31 | 30 | 29 |
| 訪問回数(回) | 192 | 179 | 189 | 214 | 207 | 187 | 195 | 195 | 188 | 170 | 178 | 205 |

ヘルパーステーション運営委員会

(訪問看護ステーション運営委員会と同時に開催)

介 護 保 険

新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で「感染症や災害への対応力強化」を図るとともに、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向けて、2040年も見据えながら、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止の取組の推進」、「介護人材の確保・介護現場の革新」、「制度の安定性・持続可能性の確保」の5つの柱を掲げ、プラス0.7%の改定が行われた。概要は以下の通りである。

①感染症や災害への対応力強化

近年、新型コロナウイルスの感染拡大や自然災害の増加などの影響から、日頃からの備えはもちろん、感染症や自然災害発生時でもご利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供できる体制の構築が求められており、こうした背景から、今回の改定では「感染対策の強化」や「業務継続に向けた取組の推進」などが新たに加えられた。

主な改定ポイントは、「日頃からの備えと業務継続に向けた取組の推進」として感染症対策の強化が挙げられ、感染症の発生やまん延等を予防するため、すべての介護サービスに対して感染症対策に関する取組（委員会の開催、指針の整備、研修・訓練の実施）が義務化された。「業務継続に向けた取組の推進」としては、感染症や災害が発生した場合であっても、必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築できるよう、すべての介護サービスに対して『業務継続に向けた計画等の策定、研修、訓練の実施』などが義務化された。「災害への地域と連携した対応の強化」としては、災害への対応は地域との連携が大切なことから、施設系サービス等が非常災害対策に関する訓練を行う場合、地域住民の参加が得られるよう連携を図ることが努力義務化された。

②地域包括ケアシステムの推進

高齢化、認知症の高齢者の増加が進んでいる日本において、介護ニーズのさらなる増大・多様化が予測され、こうした中、国では2025年を目処に「地域包括ケアシステム」の構築を目指している。今回の改定では、住み慣れた地域において、ご利用者の尊厳を保持しつつ、必要なサービスが切れ目なく提供されるよう、「認知症への対応力向上に向けた取組の推進」や「看取りへの対応の充実」などについて議論され以下の点がポイントとなった。

◎認知症への対応力向上に向けた取組の推進

認知症対応力を向上させるため、ほぼすべての介護サービスで働く医療・福祉関係の資格

を持たない職員に対し、「認知症介護基礎研修」の受講が義務化され、その他、すべての介護サービスに対して、認知症に係る取組の情報公表が求められるようになった。施設系サービス等については、これらに加えて、「認知症専門ケア加算等の見直し」が行われた。

◎看取りへの対応の充実

看取り期におけるご本人・ご家族との十分な話し合いや、他の関係者との連携を一層充実させるため、「看取り介護加算（介護老人福祉施設等）」や「ターミナルケア加算（介護老人保健施設）」の算定要件に、「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」等に沿った取組や、ご本人の意志を尊重した医療・ケアの方針決定に対する支援が規定された。

③自立支援・重度化防止の取組の推進

ご利用者様の自立支援・重度化防止を図るには、リハビリテーション・機能訓練や口腔、栄養の取組が大切となり、また、自立支援・重度化防止の取組を適切または効率的に行うには、サービスの質の評価やデータの活用を行いながら、科学的に効果が裏付けられた質の高いサービスの提供が必要となる。そこで今回の改定では、「介護サービスの質の評価と科学的介護の取組の推進」や「寝たきり防止等、重度化防止の取組の推進」などについて議論された。

◎リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の取組の連携・強化

リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養に関する加算等の算定要件には、計画作成や会議に関する事項が設けられているが、今回、これらにリハビリテーション専門職、管理栄養士、歯科衛生士が必要に応じて参加することが明文化された。その他、各種計画書に記載されている項目のうち、重複する項目は整理するとともに、それぞれの実施計画を一体的に記入できる様式が設けられることとなった。

・リハビリテーション・機能訓練

「リハビリテーションマネジメント計画書情報加算（老健）」が新設

・口腔

「口腔衛生管理体制加算（施設系サービス）」が廃止され、令和3年度から、基本サービスとなった。

・栄養

「栄養マネジメント加算（施設系サービス）」が廃止され、基本サービスとして行うことに。（栄養ケア・マネジメントが実施されていない場合、基本報酬が減算）

◎介護サービスの質の評価と科学的介護の取組の推進

介護サービスの質の評価と科学的介護の取組の推進に向けて、LIFEの活用を促す観点から、「科学的介護推進体制加算（施設系サービス）」を新設。既存加算の単位数・算定要件の見直しも行われた。「リハビリテーションマネジメント加算（訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション）」などについてはLIFEの活用次第で単位数がプラス、「褥瘡マネジメント加算」などについては算定要件にLIFEへのデータ提出・活用が追加された。

◎寝たきり防止等、重度化防止の取組の推進

介護の質の向上につながる取組がより一層進められるよう、既存の「褥瘡マネジメント加算」「排せつ支援加算」に、褥瘡や排せつの状態の改善等（アウトカム）を評価する新たな区分が創設された。また医師の関与の下、リハビリテーション・機能訓練・介護等を推進するため、「自立支援促進加算」が新設された。

④介護人材の確保・介護現場の革新

介護ニーズが高まる一方で、介護人材の不足が慢性化している介護業界において、人材確保や生産性向上などに寄与する取組の実施は急務である。今回の改定では、「介護職員の処遇改

善や職場環境の改善」や「テクノロジーの活用や人員基準・運営基準の緩和」などについて議論された。

◎介護職員の処遇改善や職場環境の改善に向けた取組の推進

既存の「介護職員等特定処遇改善加算」がより活用しやすい仕組みになるよう、同加算の見直しが行われた。また、働きやすい職場環境づくりが進められるよう、「人員配置基準における両立支援への配慮」や「ハラスメント対策」がすべての介護サービスに対して求められることとなった。

◎テクノロジーの活用や人員基準・運営基準の緩和を通じた業務効率化・業務負担軽減の推進
・テクノロジーの活用

テクノロジーの活用が推進されるよう、「見守り機器等を導入した場合の夜勤職員配置加算（介護老人福祉施設等）」の見直しが行われた。また、すべてのサービスに対して ICT を活用した会議等が認められたほか、対象は限られるが、職員体制等を要件とする加算に、見守り機器やインカムといったテクノロジー機器の活用を考慮した算定要件が導入された。

・人員基準、運営基準の緩和

介護老人福祉施設等については、人員確保や職場定着の観点から、人員配置基準が見直された。

◎文書負担軽減や手続きの効率化による介護現場の業務負担軽減の推進

利用者等への説明・同意や、諸記録の保存・交付等について、電磁的な対応が原則認められ、また、運営規程等の重要事項の掲示についても見直しが行われた。

⑤制度の安定性・持続可能性の確保

近年、介護に要する費用が大幅に増加しているが、少子高齢化の影響で生産年齢人口のさらなる減少が見込まれ、こうした中、今回の改定でも制度の安定性・持続可能性が高められるよう、サービス提供の実情などを踏まえつつ、「評価の適正化・重点化」や「報酬体系の簡素化」が進められた。

◎評価の適正化・重点化

介護療養型医療施設（老人性認知症疾患療養病棟を除く）については、令和5年度末の廃止期限までに介護医療院への移行等を進める観点から、基本報酬の見直しが行われた。また、「介護職員処遇改善加算（IV）（V）」については、上位区分の算定が進んでいることから、「廃止」が決定された。なお、令和3年度3月末時点で、同加算を算定している介護サービス事業者には、1年間の経過措置期間が設けられている。

要点としては以上となるが、新型コロナの感染も含め取り巻く環境は以前にも増して厳しい状況である。

国に対しては、更なる報酬アップとなる点数の改訂や要件緩和を求めていきたい。介護認定審査会は、皆様方のご協力により引き続き変更なく引き受けて頂き感謝申し上げる次第である。今年度の審査会の開催回数及び審査件数は、別府市・日出町で日中・夜間合わせて237回開催され、8,617件が検討された。今後も、引き続きご協力をお願いしたい。

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 令和3年6月23日 | 第5回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会（Web） |
| 10月15日 | 第6回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会（Web） |
| 12月17日 | 第7回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会（Web） |